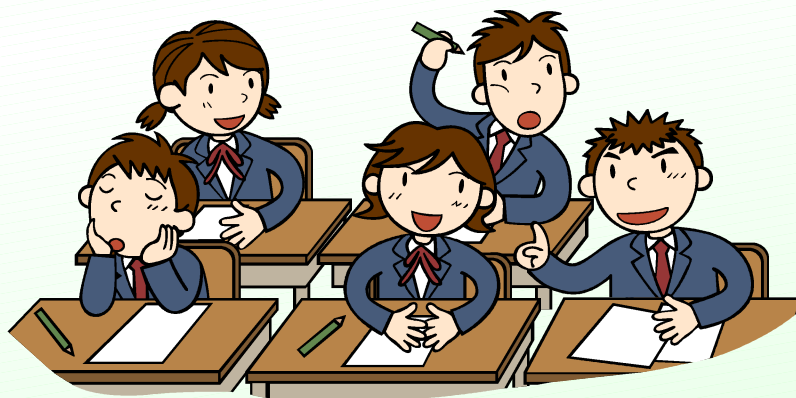


特別支援教育の

ミニマムスタンダード

－全員で取り組む授業づくりと授業改善－



秋田県教育庁特別支援教育課
秋田県総合教育センター

特別支援教育のミニマムスタンダード

ー全員で取り組む授業づくりと授業改善ー

この冊子では、特別支援教育において「全員が」大事にすべき授業づくりのポイントと、「全員で」アイデアを出しながら取り組んでいく授業改善について提案します。

1 児童生徒理解

2 単元（題材）設定

3 教材研究

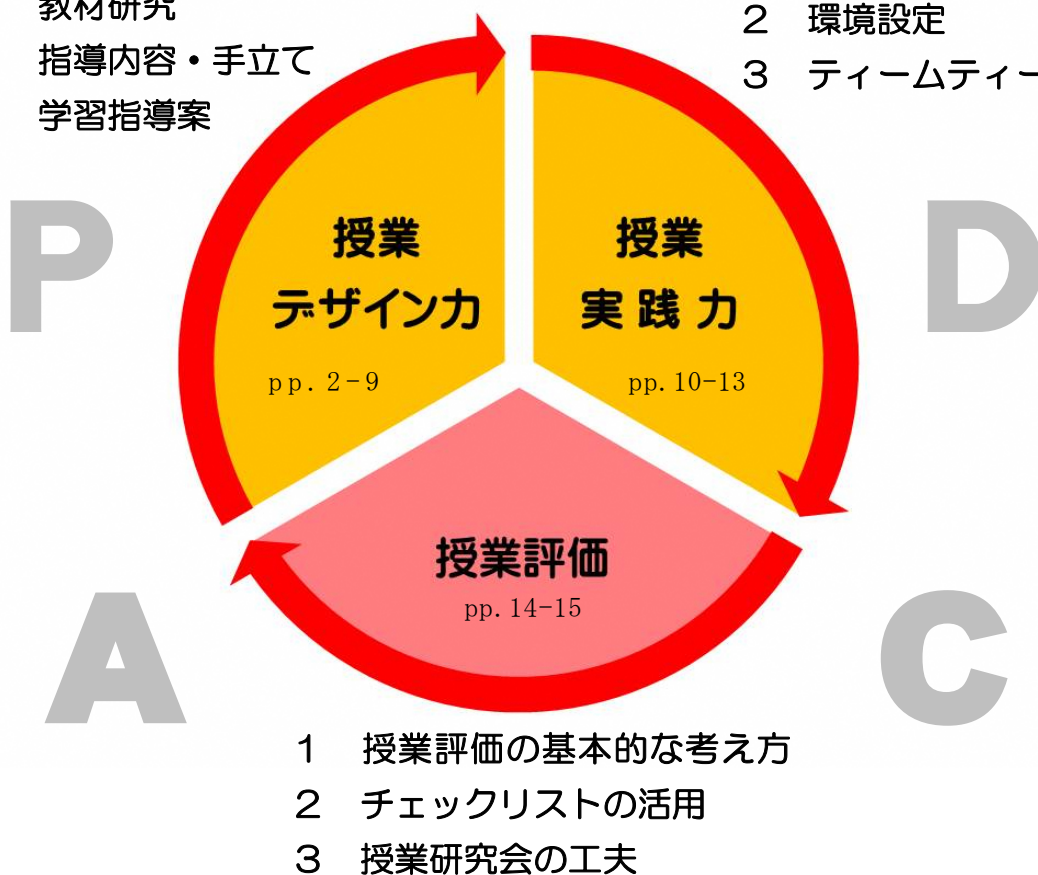
4 指導内容・手立て

5 学習指導案

1 基本姿勢・学習活動

2 環境設定

3 ティームティーチング



日々の授業実践をより確かなものにしていくためには、授業づくりにおいて共通の視点を持ちながら、それぞれの学校での専門性を深めていくことが大切です。

このようなことから「特別支援教育のミニマムスタンダード」を作成しました。これは授業づくりを授業の設計・計画である「授業デザイン力」と具体的な指導力である「授業実践力」という2つの視点からとらえて構成したものです。日々の授業改善に生かしましょう。

※この冊子では、「児童生徒」と「子ども」を文脈によって使い分けていますが、意味は同じです。特別支援学校等で授業を受けているすべての人を指します。

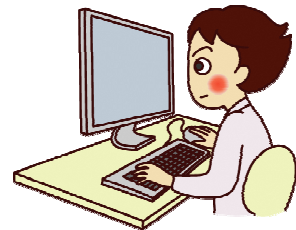
自分の授業について振り返ってみよう！

新しく学級担任になりました。
正直、子どもたちの実態がまだよくわかりません。どんなポイントに気をつけて把握していけばよいのでしょうか？

特別支援学校は教科書がないから、どんな単元や題材を計画したらよいのか悩んでいます。

教師間の連携が大切・・・とは聞きますが、実際にどのような連携をしたらよいのでしょうか。徐々に、T1になって授業を進める時間も増えてきています。

自分の普段行っている授業について気になります。一生懸命、教えているつもりなのですが、なかなか学級の生徒が落ち着いて話を聞いてくれません…。



特別支援教育では、児童生徒の実態把握を生かしながら単元（題材）設定をしていく必要があります。児童生徒が現在もっている力の把握と、今後どういった力を育てていきたいのかを明確にしながら具体的な目標を設定します。

○行動観察

- ・本人の得意なこと、苦手なこと、興味・関心、対人関係スキル等の把握

○心理アセスメント等

- ・障害の状態や認知特性等の把握

○引継ぎ資料（個別の指導計画・指導記録簿 等）

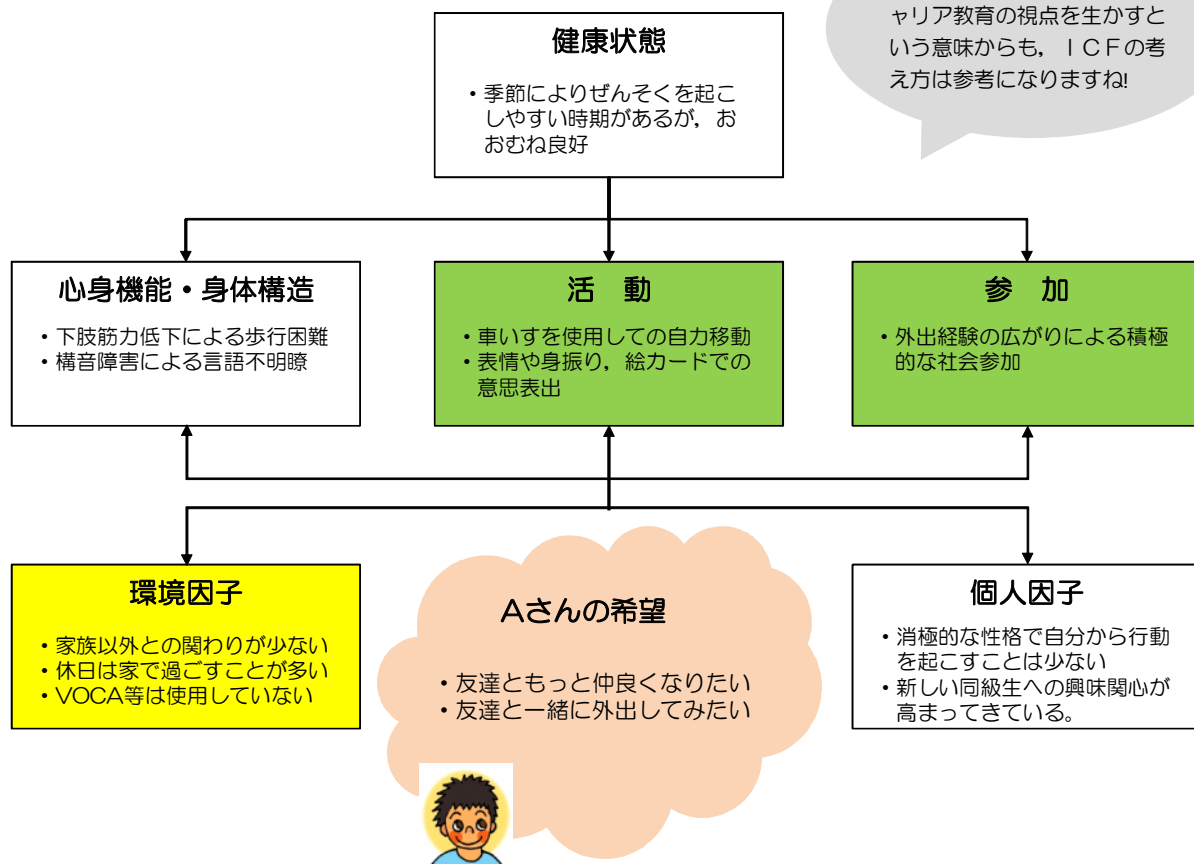
- ・児童生徒の力を「現在できていること」と「これから付けたい力」に分けて把握

○保護者との面談

- ・本人や保護者の将来望んでいる姿の把握
- ・家庭や地域での生活の様子の把握

実態把握は多面的に行い、本人を取り巻く環境も含めて総合的に捉えましょう。また、指導を行う前にすべてを把握しようとするのではなく、**指導を行いながら徐々に細やかな実態把握を行います**。児童生徒の全体像の捉え方については、次のような ICF（国際生活機能分類）の考え方が参考になります。

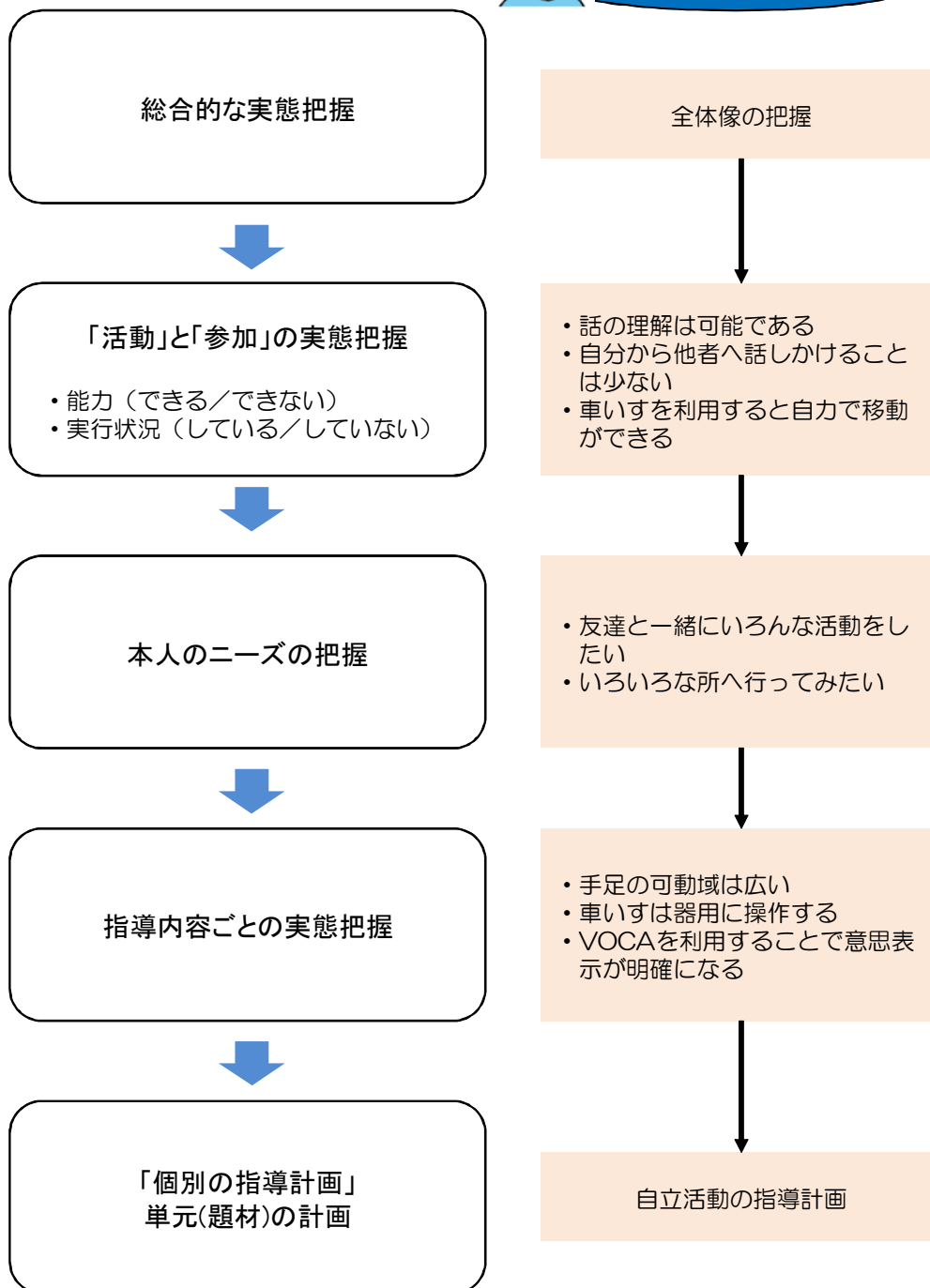
例えばAさんの現在の状況を表すと次のようになります。



マイナス面のみに着目するのではなく、本人の「よさ」を生かすことを大事にして、それを促進する要因や阻害する要因について整理します。実態把握の内容を授業デザインへ生かしていくためには、次のような手続きを踏まえましょう。自立活動の指導例を示します。



Aさんの自立活動の例



VOCA: Voice Output Communication Aid

授業デザイン力

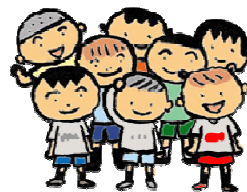
2 単元（題材）設定

「単元（題材）設定」は、実際の授業内容を組み立てていくための出発点です。学習指導要領に示されている事柄を指導目標と指導内容の基礎として、子どもたちのニーズに合致した単元（題材）の発想をすることが大切です。これまでの学習経験や既習事項をしっかりと定着させ、発展的・継続的学習内容へとつなげていくための見通しを明確にしておく必要があります。

単元（題材）設定の段階がしっかりとデザインされているかどうか、次の点について点検してみましょう（9ページのチェックリスト参照）。

- 子どもの発達段階に応じた単元（題材）である。
- 子どもの興味・関心に基づいた単元（題材）設定になっている。
- 単元（題材）の内容は、現在または将来の生活と結び付いている。

児童生徒理解の段階で把握した、既習事項や学習経験、学習内容の定着度等から判断して、十分なレディネスが備わっているかを吟味します。また、この単元（題材）で身に付けることができる内容は、児童生徒にとってどのような価値があるのか、現在や将来の生活との関連において検討する必要があります。



生活単元学習の例

生活単元学習では「学校生活にテーマをもつ」ということが重要になります。児童生徒の実態や、その時期の生活の中から見出されたテーマを選択し、活動を展開させていきます。

<単元の内容例>

- ・遊ぶ活動を中心にした単元
- ・製作活動を中心にした単元
- ・飼育や栽培を中心にした単元
- ・働くことをテーマにした単元
- ・演奏や演劇を中心にした単元
- ・学校行事をテーマにした単元
- ・校外学習や宿泊学習などの体験的単元

児童生徒の生活の中からその時期の中心となる活動を見付ける

児童生徒の意見や考えを取り入れながら、単元の全体像を変化させたり、発展させたりしながら展開することが重要



**教師の「持ち味」を生かして
生き生きと！**

単元を通して育てたい力から、本時の目標までのつながりを明確にする

単元の全体像

単元の目標（全体・個別）

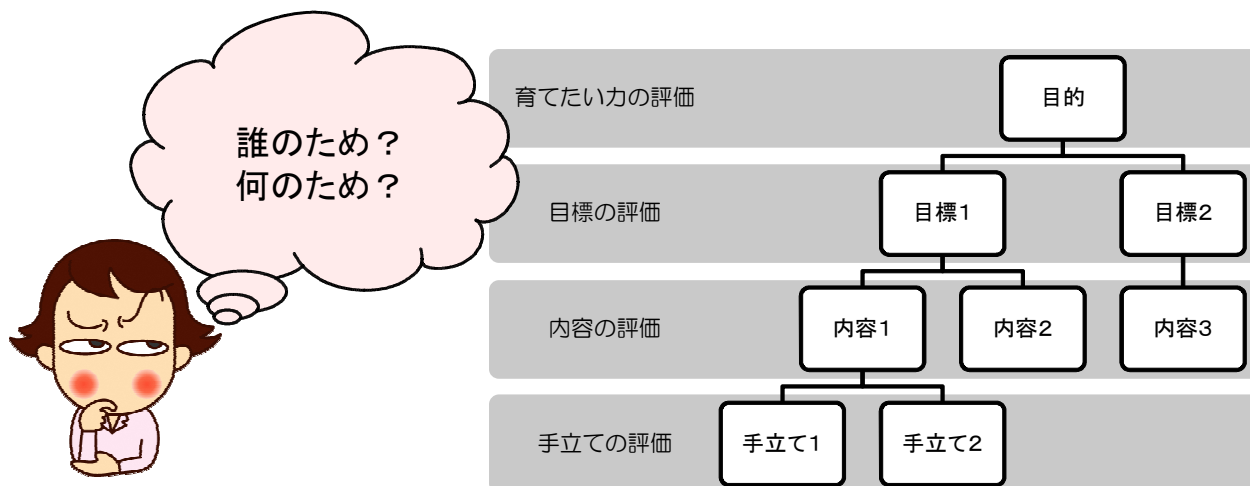


本時の目標（全体・個別）

○単元（題材）を通して育てたい力（目標）が明確である。

○単元（題材）を通して各学習活動のねらいが明確である。

この学習活動は「何のため？」という「目的」がはっきりしていること、そしてその目的を達成するための段階や目安を示す「目標」が具体的であることが、とても重要です。これらが明確になっていないと、そのためにどんな方法で指導するかという「内容」や「手立て」を考えたり、どの程度達成できたかという判断のための「評価」をしたりすることが難しくなります。

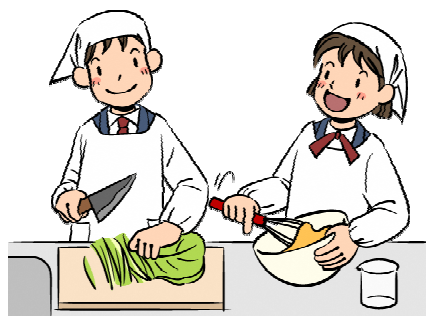
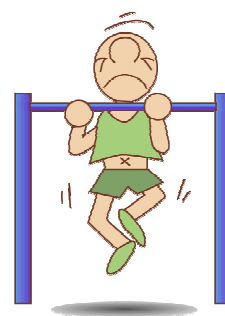


○少し難しく、挑戦したいと思える課題が設定されている。

○子ども一人一人が主体的に判断し、活動する場面を確保している。

「うちのクラスの子どもたちの力はこの程度だから…」と、必要以上にやさしい課題やすぐにできてしまう学習活動を計画していませんか？「児童生徒の実態に合わせる」ことを間違って解釈すると、成就感や達成感を味わうことが少ない学習になってしまう危険があります。

「挑戦的」な学習活動を用意しましょう。一人では難しい課題は、友達と協力したり、話し合ったりすることで解決できるかもしれません。何か道具を工夫して使うことでうまくいくかもしれません。何回も練習を重ねることでやり遂げることができるかもしれません。児童生徒が、考えたり、判断したり、工夫して表現したりすることができるような機会を設定することが大切です。このことで、精一杯自分の力を発揮して活動に取り組む力が育つのではないのでしょうか？



もう少し活動時間を伸ばすと
最後まで完成できるかも…

角材を固定しておくと、一人で
のこぎりを使えるかも…

友達と一緒にだと、自信をもって
買い物ができるかも…

教材研究をする際には「何のために教えるのか？」という、教材の「目的」を明確にすることから始めます。特別支援学校では全ての児童生徒が使える教材集としての教科書はありませんが、次のような一連の流れを意識しながら教材研究を行いましょう。

①「素材研究」

「素材」とは「教材」以前の材料である。教師自身がその素材の本質を理解して教材化を目指す。

②「教材研究」

素材の本質が見えてくると、児童生徒のどんな力を育てることができるかが見えてくる。どんな題材を設定し、どのような計画で題材を配列するのか検討する。

③「指導法研究」

「どのように教えるのか」について考える。児童生徒個々に合わせた教具を工夫したり、発問や指示、環境設定などを吟味したりする。

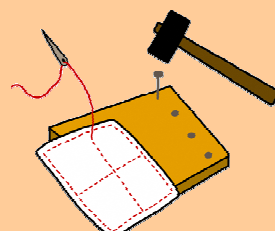
木 工 作 業 の 例

- | | | |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・作業学習で「木」という素材を取り上げたい ・「木」という素材の本質について検討する
～身近な素材・可塑性がある・加工がしやすい… | <ul style="list-style-type: none"> ・工具の扱いに慣れるために、たくさん木を切ったり釘打ちしたりできる題材 ・文化祭での販売を目指した一連の流れに関連させた単元（題材） | <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもちにくいB君が集中できるように作業の動線を工夫する ・左手が不自由なAさんには板を固定して切れるような教具を準備する |
|--|---|---|

育てたい力

教材・教具の開発ポイント

- ◇児童生徒の発達や障害の状態に対応している
 - ・どのような操作が可能か、どのような考え方をするかなど細かな実態把握に基づいた教材
- ◇指導のねらいに沿っている
 - ・理解していることやできることに基づき、目標達成に必要な教材
 - ・段階的に指導できるように、ステップを設けたりヒントが与えられたりする教材
- ◇児童生徒の興味・関心や学習意欲を高める
 - ・学習者が使用して学習した結果を自分で確認できる教材
- ◇操作が容易であり、構造が単純なもの
- ◇繰り返して使用でき利用度が高いもの



児童生徒の実態や付けたい力を踏まえて、どんな単元（題材）を設定し、それをどのように展開させていくのか。特別支援学校ではそれぞれオーダーメイドで作りに上げていくことになります。それが特別支援教育の難しさでもあり、醍醐味でもあると言えます。指導内容や指導の手立てを検討する際には次のことに配慮しましょう。

○ 指導内容の検討

- ・「何のためにこの活動を行うのか」が明確である
- ・1時間の中で中心になる活動が一つに示されている
- ・満足感の得られる十分な活動量が準備されている
- ・児童生徒が自分で考えたり、選んだりできる活動がある

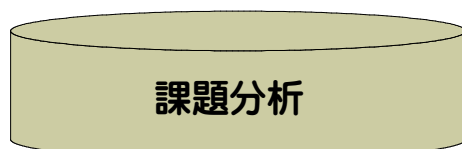
○ 課題配列の検討

質の観点

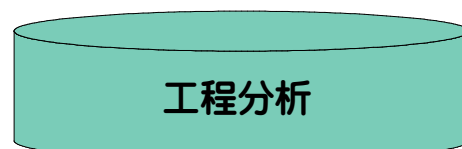
- ・やさしい→難しい
- ・大まか→細かい

量の観点

- ・少ない→多い



+



課題を分析してスモールステップ化を図ったり、活動の工程を順序立てたり、組み合わせたりすることで、児童生徒の意欲が高まり、見通しをもつことができます。

○ 認知特性を生かした指導

一人一人の児童生徒にとって、学びやすい様々な学習スタイルがあります。ここではその中から、聴覚優位と視覚優位について説明します。

◇聴覚優位（聴覚的な情報を処理することが得意）～時系列的に順番に学習する

◇視覚優位（視覚的な情報を処理することが得意）～全体像を捉えてから学習する

視覚情報処理 < 聴覚情報処理

- ・板書や文字カードと一緒に音読する
- ・順序立てて行えるように、マニュアルを準備する
- ・文字の大きさ、色、行間に配慮する

例：調理実習で手順カードを使う

- ① お湯を沸かす
- ② だしをとる
- ③ 豆腐を切る
- ④ ……

視覚情報処理 > 聴覚情報処理

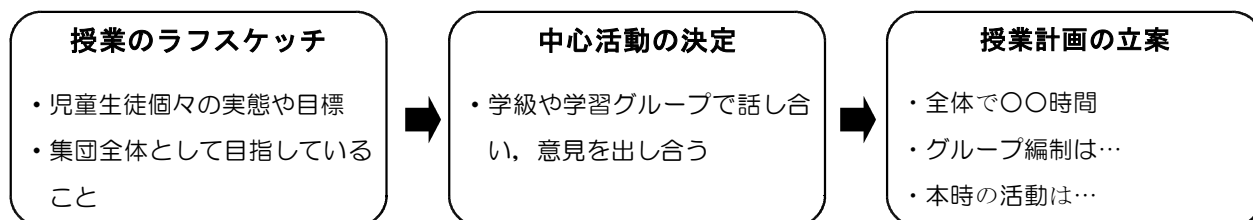
- ・言葉の説明だけでなく板書も使って示す
- ・課題等の提示にICT機器を使う
- ・短い言葉で簡潔に指示をする
- ・具体物の操作や、体験的学習を取り入れる

例：完成した料理の写真を見る



ネギや豆腐が入っているんだな！

単元（題材）、教材、指導目標、指導の手立てが決まったら、授業を1本のストーリーとして構想してみましょう。一度にすべての要素を盛り込もうとするのではなく、授業を行いながら修正していくことが大切です。



授業を行う際には学習指導案を書いて、担当する教師間で確認をします。様式に特に決まりはありませんが、一般的な要素を全て記載したタイプや、本時の学習過程のみを取り出した「略案」（本時案）、教師の支援内容や教材・教具の活用場面等について詳しく示した「細案」等、目的に合わせて作成しましょう。

授業を記録したり、改善案を検討したりするなどの目的で、日々の授業に学習指導案を活用していくためには、「全体の目標」「学習過程」「児童生徒個々の目標や活動」等を、シンプルに見やすく工夫することが大切です。

本時の学習過程を
シンプルに示した例

5 本時の計画（総時数 63 時間中の 29・30 時）

(1) 全体の目標

- ・手順や約束を守り、作業に取り組む。
- ・分からない時は近くにいる教師に質問し、正しいやり方確かめる。

提案 日誌記入の際に、前時の反省点を克服するための手立てや手掛かりを教師と共に確認することで、生徒が課題を意識して作業に取り組み、製品の出来映えが向上するであろう。

(2) 配置図【個別の目標 (○) と手立て (△)】

(3) 学習過程

学習活動
1 日誌の記入、今日のポイント確認（10）
2 作業（60）
3 片付け、日誌記入（10）
4 今日の振り返り（10）

掲示用ホワイトボード

完成品
半完成品
道具置き場

用具棚
作品ディスプレイ

A

器用さ	やや不器用
集中力	ある
スピード	ゆっくり
正確さ	慣れれば正確
理解の早さ	ゆっくり

○適度なゆとりをもたせて縫う
△終わりの返し縫いをする前に自分で縫い目を点検するよう最初に伝える。

B

器用さ	器用
集中力	ある
スピード	ゆっくり
正確さ	限界あり
理解の早さ	ゆっくり

○青い印をすべて隠すように縫う。
△縫い方を示したカードを机の上に置き、自分で見比べられるようにする。

C

器用さ	やや不器用
集中力	ない
スピード	ムラがある
正確さ	ムラがある
理解の早さ	ゆっくり

○糸切りの見落としがないか点検してから報告する。
△報告前に必ず点検するよう様子をしながら言葉掛け。

D

器用さ	やや不器用
集中力	ない
スピード	ムラがある
正確さ	ムラがある
理解の早さ	ゆっくり

○チャームリップの印に沿ってミシンで縫う。
△手元に注目できるように複雑な模様を準備する。

作業学習の指導案です。生徒の作業位置や個別の目標を分かりやすく記載しています。

学習過程は、1単位時間の活動の流れやポイントを簡潔に書いています。

★ 授業をデザインするには、次の項目でチェックしてみましょう ★

A 授業デザインチェックリスト

期 日		単元(題材)名	
授業者		評価者	

評価基準 : 4 (よい) - 3 (概ねよい) - 2 (やや不十分) - 1 (不十分)

	番号	評 価 内 容	評 価
子ども理解	1	学習や生活の様子、取りまく環境、興味・関心等、実態を多面的に把握している。	4-3-2-1
	2	得意なことを伸ばし、苦手なことは「〇〇があればできる」という視点でとらえている。	4-3-2-1
単元(題材)設定	3	「個別の指導計画」→「年間指導計画」→「単元毎の計画」を踏まえて指導案を作成している。	4-3-2-1
	4	子どもの発達の段階に応じた単元(題材)である。	4-3-2-1
	5	子どもの興味・関心に基づいた単元(題材)設定になっている。	4-3-2-1
	6	単元(題材)をとおして育てたい力(目標)が明確である。	4-3-2-1
	7	単元(題材)の内容は、現在または将来の生活と結び付いている。	4-3-2-1
	8	単元(題材)をとおして各学習活動のねらいが明確である。	4-3-2-1
	9	集団の活動としてゴールが明確な単元(題材)構成になっている。	4-3-2-1
	10	少し難しく、挑戦したいと思える課題が設定されている。	4-3-2-1
教材研究	11	単元(題材)の目標に迫るため、適切な教材が検討されている。	4-3-2-1
	12	何をどのように指導するかという教材の意図が明確になっている。	4-3-2-1
	13	補助具や環境設定の工夫により、一人で活動できる場面づくりがなされている。	4-3-2-1
指導計画・内容	14	単元(題材)をとおして、知識や技能を獲得するための活動量が保証されている。	4-3-2-1
	15	一人一人が主体的に考えて、判断し、表現したり活動したりする場面を確保している。	4-3-2-1
	16	障害への配慮や認知特性を生かすなど一人一人の学びやすさに対応している。	4-3-2-1
	17	やり直しや繰り返し行うことができる内容である。	4-3-2-1
	18	一人一人に応じて、内容に易から難、少から多、粗から細などの過程や段階、種類がある。	4-3-2-1
	19	指導方針や効果的な支援のための教師の役割が明確である。	4-3-2-1
コメント			

※コメントには主に改善案を記入する。必要に応じて、項目番号を記入する。

※各教科等、本時の授業内容等によって評価できない場合は、項目番号に斜線を引き、評価欄は無記入とする。

授業実践力

1 基本姿勢・学習活動

児童生徒の前に立つ自分の姿について振り返ってみましょう。話し方や表情も含めて教師の姿勢全てが児童生徒への発信となっています。また、コミュニケーションは発信と受信が相互に関連し合っこそ成立します。一方的に教師が伝える技術を磨くのではなく、児童生徒の発信を受け止め最も伝わりやすい方法を探していきましょう。

基本姿勢

- 健康・体調、安全や衛生面への配慮を十分行っている。
- 明るく、落ち着いた雰囲気を作っている。
- 子どもからの反応や発信に気づき、受け止めている。
- 子どもの気持ちや思考に寄り添い、一緒に取り組んでいる。
- 言葉遣いや態度など、場に適した対応をしている。



○児童生徒に伝わりやすい話し方

- ・伝える第一歩は目線を上げて
- ・明るい表情と元気な声で
- ・一文で1つの指示を
- ・具体物を示しながら
- ・一問一答にならないように
- ・一緒に考えながら
- ・ユーモアをプラスして
- ・意図を明確にして



話す



○児童生徒の話を聴き方

- ・児童生徒の表情をよく見ながら
- ・受容的な雰囲気です
- ・児童生徒の話を最後まで
- ・児童生徒同士の意見をつなぎながら
- ・児童生徒の理解の程度を確かめながら
- ・児童生徒の話を楽しみながら



聴く

学習活動

指導を効果的に進めるためには様々な学習場面が考えられます。1時間の授業の中でねらいに合わせて有効に組み合わせていきましょう。

学習の流れ	学習場面の例		
導入	○学習への意欲をもつ場面 ・「やってみたい!」という気持ちを引き出す提示の工夫		○学習への見通しをもつ場面 ・本時の活動の確認(予定・めあて)
展開	○集中して自分の課題に取り組む場面 	○協力して課題に取り組む場面 	○自分で選んだり決めたりする場面 
まとめ	○お互いに学び合う場面 ・友達の作品を見たり、意見を聞いたりすることで起こる変化		○自己評価・他者評価をする場面 ・自分のめあての達成度や、次に取り組むことの確認

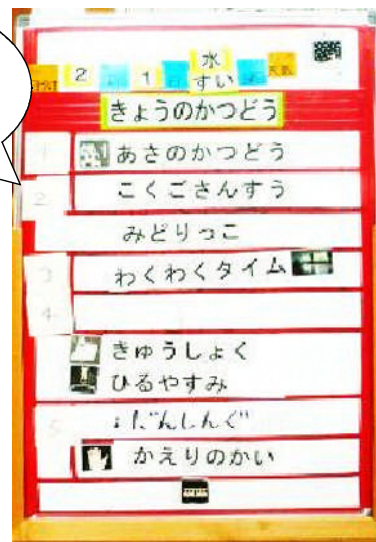
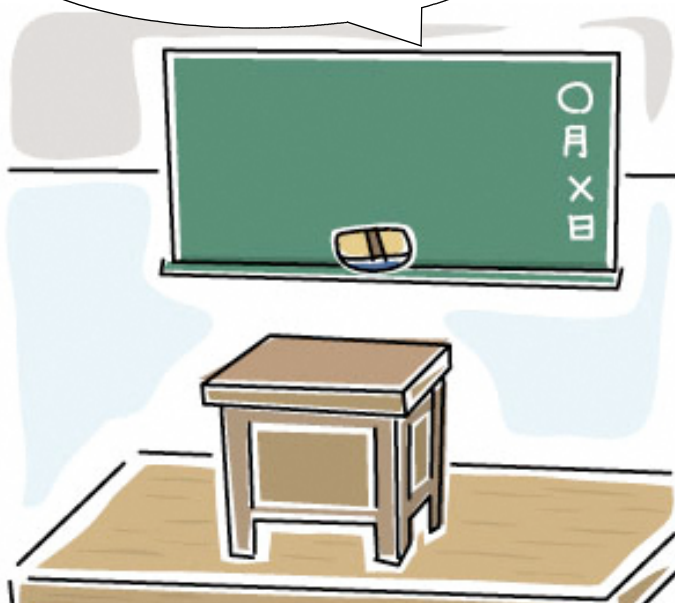
授業実践力

2 環境設定

児童生徒の中には、必要な情報（刺激）に注意を集中したり、自分の気持ちをうまく表現したりすることが苦手な子どもがいます。次のような工夫を意識することで、分かりやすくなる児童生徒が増えます。

必要な情報に注意を集中することができるように、掲示物や教材を整理する。

1日の見通しをもつための予定表



<子どもの「動線」に配慮した例>

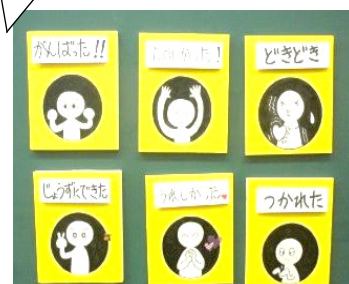
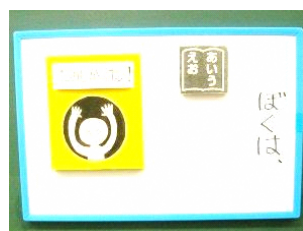
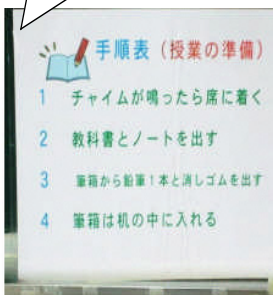
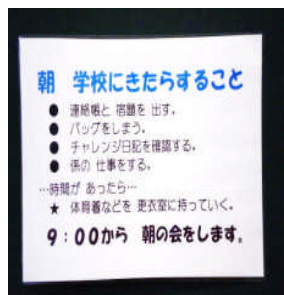
- ・靴を入れるロッカーの上に「連絡帳入れ」「宿題入れ」の箱を置く
- ・水飲み場の近くに歯磨きセットを置く
- ・作業学習での作業工程に沿った場の設置
- ・グループ学習を考慮した子どもの席順

<板書や掲示の基本>

- ・楷書で正確に丁寧に書く
- ・文字の大きさや見えやすさに配慮する
- ・基本的に国語は縦書で書く
- ・思考の流れを整理する「情報板」にする
- ・子どもの言葉を生かしながら書く
- ・学習の経過が分かるような板書にする
- ・板書内容、書くタイミングを事前に吟味する

やるべきことを順番に示した「手順表」

気持ちの表出を手助けする表情カードの活用

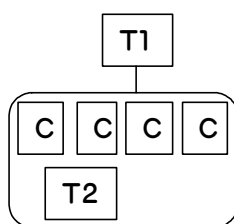


ティームティーチング（TT）では、複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導にあたります。単に同じ場所に複数の教員が配置されているというわけではありません。特別支援学校ではほとんどの授業がTT方式による指導ですので、授業を行う際には、どの形式で、誰が、どのような働きかけをするのかなど役割分担をしっかりと確認しておきましょう。

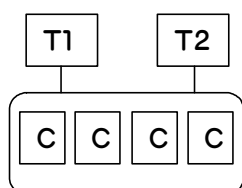
◇TT方式の形式パターン例

T:教師 C:児童生徒

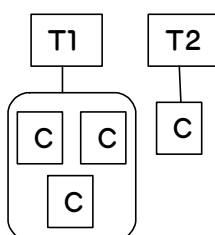
① 一般型



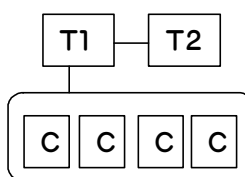
② 演示型



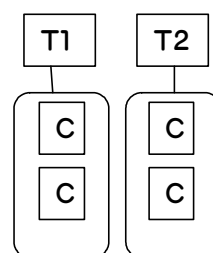
③ 抽出型



④ 補助型



⑤ グループ型



<例：⑤グループ型を取入れた体育の授業>

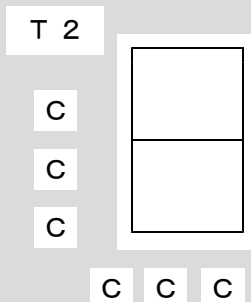
○TTを上手く機能させることで効果的なグループ学習を行うことができます。

Aグループ～ある程度技能の高まっている子どものグループ。マットを2枚にして更に活動量を増やす。

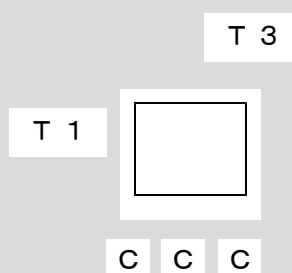
Bグループ～活動量よりも技能習得のために丁寧な支援が必要なグループ。

教師の配置と役割については、T1が両グループの子どもの様子を見ながら全体の流れの確認と、全体把握をします。T2、T3がそれぞれのグループのマットにつき、子どものねらいや技術に合わせた指導を行います。

A グループ

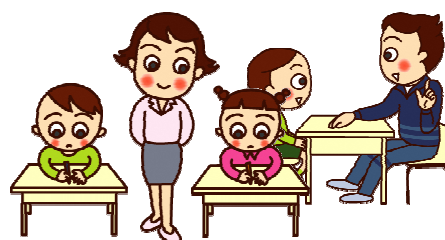


B グループ



TTを機能させるには、授業デザインの段階から教師が協同で進めることが大切です。また、次の事柄について教師同士が共通理解を図って授業に臨みましょう。

- ①子どもの個別目標
- ②授業展開
- ③役割分担
- ④活動内容、子ども個々の支援の内容
- ⑤評価（子どもの姿・教師の手立て）



★ 授業実践を行った後には、次の項目でチェックしてみましょう ★

B 授業実践チェックリスト

期 日		単元(題材)名	
授業者		評価者	

評価基準 : 4 (よい) — 3 (概ねよい) — 2 (やや不十分) — 1 (不十分)

教師の基本姿勢	1	健康・体調、安全や衛生面への配慮を十分行っている。	4-3-2-1
	2	明るく、落ち着いた雰囲気をつくっている。	4-3-2-1
	3	子どもからの反応や発信に気付き、受け止めている。	4-3-2-1
	4	子どもの気持ちや思考に寄り添い、一緒に取り組んでいる。	4-3-2-1
	5	言葉遣いや態度など、場に適した対応をしている。	4-3-2-1
学習のねらい及び学習活動の設定	6	単元や子どもの実態を踏まえ、本時のねらいが適切に設定されている。	4-3-2-1
	7	本時の学習内容や難易度の設定が適切である。	4-3-2-1
	8	本時の学習量や学習時間・時間配分の設定が適切である。	4-3-2-1
	9	本時の学習に対する成就感と次時への期待感がもてるようまとめている。	4-3-2-1
教材・環境・設定及び教具等	10	教室内の学習環境が整っている。	4-3-2-1
	11	分りやすく板書や提示がされている。	4-3-2-1
	12	教材・教具が適切である。	4-3-2-1
	13	必要に応じて、子どもの発信を支える教具等を用意している。	4-3-2-1
説明・教示・評価等	14	学習に対する見通しや意欲をもてるようにしている。	4-3-2-1
	15	要点をしぼり、具体的かつ簡潔に伝えている。	4-3-2-1
	16	気付きや思考、イメージ化を促す働き掛けをしている。	4-3-2-1
	17	T1として全体を把握しながら、T2と連携して授業を行っている。	4-3-2-1
	18	T2として、T1と連携し子どもの動きに応じた指導をしている。	4-3-2-1
	19	子どもが理解しているか、活動できているか見届けている。	4-3-2-1
	20	努力や成果、態度などを的確に、場を捉えて認めている。	4-3-2-1
コメント			

※コメントには主に改善案を記入する。必要に応じて、項目番号を記入する。

※各教科等、本時の授業内容等によって評価できない場合は、項目番号に斜線を引き、評価欄は無記入とする。

授業評価

1 授業評価の基本的な考え方

授業における評価とは、授業そのものの価値を判断することだけではなく、その判断を次の授業に生かしていくことが大切です。

ここでは授業者から見た評価について考えてみましょう。

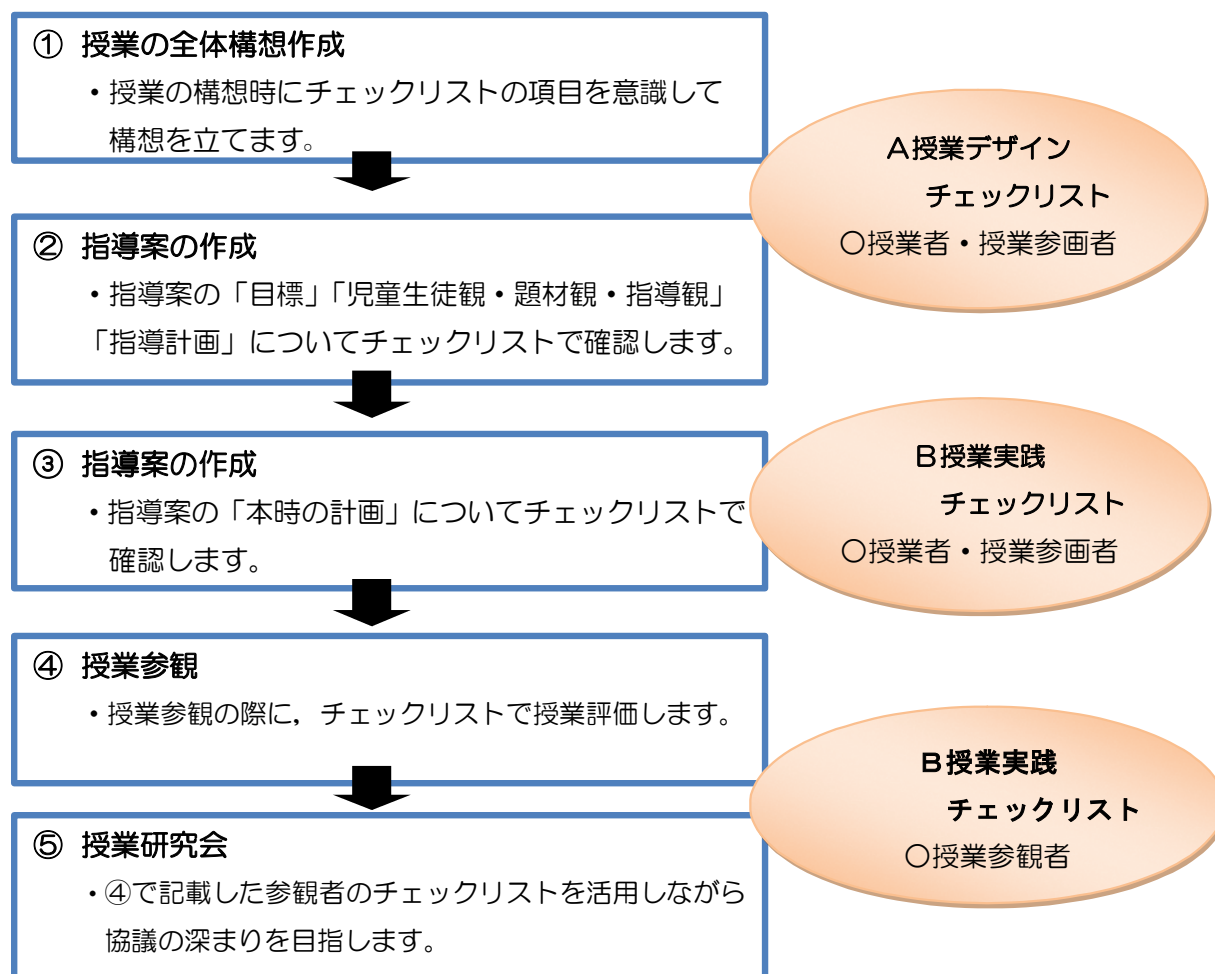
◇授業者側から見た評価

- ・児童生徒の実態を踏まえて単元（題材）設定や指導内容、計画の適切さを確認する。
- ・児童生徒の学習に対する教師の指導方法の妥当性を高める。

- A 授業デザインに関する評価（9ページ）
B 授業実践に関する評価（13ページ）

2 チェックリストの活用

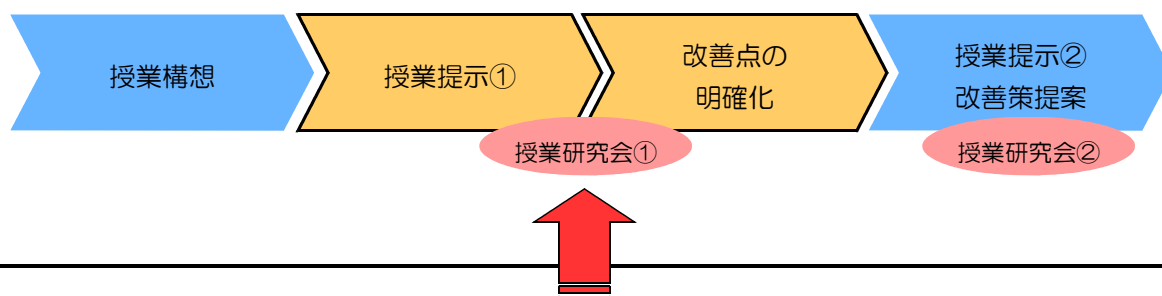
授業の設計図である学習指導案作成の際に、チェックリストを活用して授業評価を行っていきましょう。



授業研究会を実施する際に、指導計画の比較的早い時期に、複数回の授業研究会を実施することで、授業構想も含めた効果的な授業改善を行うことができます。

改善点を明確にする協議方法のひとつとして、ここでは付箋を用いた協議方法について紹介します。

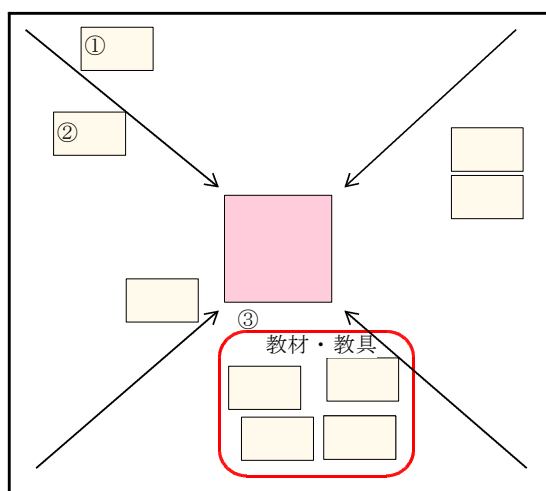
◇改善点を明確にした授業研究会の持ち方



◇付箋を用いた協議方法

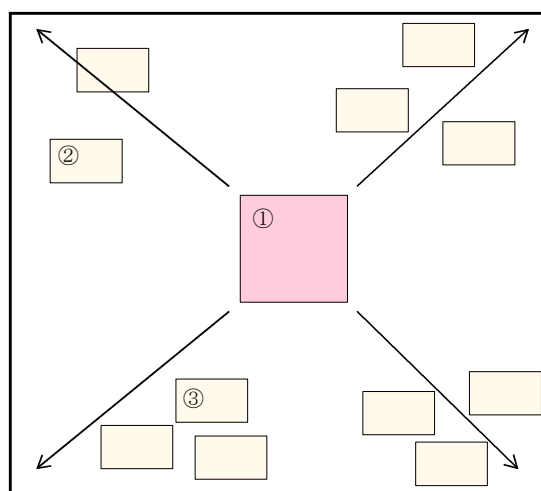
改善点を明確にする協議の実施方法としては、次のように2段階のステップで行うこと効果的です。

Step 1 課題収束



- ①授業参観（ビデオ参観）で気が付いたことを付箋に記入する
- ②付箋を貼りながら意見を出し合う
- ③付箋を分類し表札を付ける
- ④中心となる課題をしぼる

Step 2 課題展開



- ①中心課題の確認
- ②課題についての改善策を付箋に記入する
- ③付箋を貼りながら課題解決のための意見を出し合う

<付箋を用いた協議の基本>

- ・ 1枚の付箋には、一つの事柄のみ記入する。
- ・ 誰の意見か分かるように、付箋には記名をする。
- ・ 貼りながら、自分の意見を話す。

授業づくりQ&A

Q 小2の児童に文字の指導をしています。学習が定着しにくく、どうしても同じ内容の繰り返しが多くなってしまいます。どのような工夫をしたらよいのでしょうか？

子どもたちの学びが定着しやすいように、段階を踏んだ指導が必要になります。そのためには、子どもの実態や課題について細かな分析をすることや、1時間の授業を「子どもたちの側からみた評価」ということを意識して組み立てていくことが必要になります。

児童の実態の分析

- ・識別できる文字は限られるが、聞き取れる単語は多く、内言語は多いと思われる。
- ・絵本の読み聞かせを好み、拾い読みができる単語もある。

課題の分析（例：「りんご」の読み）

- ①実物や絵を見て「りんご」と分かる○
- ②「りんご」のまとまりで見分ける・読む△
- ③「り」「ん」「ご」と1音ずつ読む△

<指導内容の例>

- ・カルタ ➡ 絵と単語を一致させる
- ・ことばあそび歌 ➡ リズムに合わせて音韻を意識する
- ・（一文字ずつ分解）パズル ➡ 操作しながら文字を覚える
- ・絵本の物語の読み聞かせと教師と一緒に音読 ➡ 言葉の世界の広がり

- ・語彙を増やす
- ・1文字ずつ分解する

授業の後に

◇児童生徒からみた学習評価

- ・自分が「できるようになったこと」が実感として分かる
- ・成功した理由やなぜ失敗したのかが分かる
- ・次にどんなことをしたらよいか分かる

児童自身が自分の進歩と達成感を感じられるように！

Q 学校で行っている着替えの指導について、家庭でも同じように取り組んでほしいと考えていますが、実際にはなかなか協力が得られず困っています。どうしたらよいのでしょうか？

保護者の方にとっても子どもの成長は大変嬉しいものです。しかし、様々な事情から学校のようにじっくり取り組むことは難しい場合もあります。最初から「○○してほしい」という要望として話すのではなく、子どもの成長について具体的に伝えていくことで、徐々によい方向へ向かうことがあります。保護者の方と、現在の段階と今後の見通しについて話し合いながら、家庭でできそうなことからポイントをしばって協力を依頼してみましょう。

Q 授業改善のためにビデオ研修を計画しています。効果的に活用するためには、どのようなポイントに気を付けるとよいでしょうか？

映像として残すことで、授業者の主観だけではなく事実を確認し、評価や分析を助ける手立てとなります。効果的に生かすために次の点に配慮しましょう。

＜ビデオ撮影時のポイント＞

- ・ 定点観察の手法でワイドレンズによる撮影～教師や他児との関わり、教材・教具など幅広く画面に収まるよう配慮する。
- ➡ 事後のビデオ分析で子どもが何を注視しているか、誰の手がかりで動いているかの環境との関わりが分析できる。

＜授業研究会での視聴ポイント＞

- ・ 事実を素直に見ることから始める。
- ・ 子どもの反応と、彼らを取り巻く周りの環境設定や指導者の支援方法との関連を見る。
- ・ チェックリストの活用や、ビデオの早送りで時間短縮の工夫を行う。
- ・ 継続して実施することで変容が明らかになる。



Q 重度の障害のある児童の、手の操作性を高めたいと考えています。どのような点に留意して指導したらよいでしょう？

重度の障害のある子どもの場合、部分的な手の動きだけに注目するのではなく、より全体的な実態把握が必要になります。目の使い方、姿勢の保持などにも配慮して指導を行いましょう。また、障害の重い子どもであっても「自分の行為で状況に変化が起こる」ということを感じることで学習意欲が高まる場合がありますので、AT（アシスティブ・テクノロジー：障害のある人の生活を支えるための「支援技術」。スイッチ教材やタブレット端末を含む）なども積極的に活用しましょう。

手を動かす必然性

- ・ 児童にとって「触れてみたい」「動かしてみたい」という興味・関心をもてる活動を準備する。

手の動かしやすさへの配慮

- ・ 「にぎる」「離す」等の動きがしやすいような補助具の使用。
- ・ 可動域の把握と必要な支え。

目と手の協応

- ・ 特定の物を注視できるかどうか。
- ・ 見ている物に手を伸ばすことができるかどうか。

姿勢の保持

- ・ 手を動かすためには姿勢の保持が必要。体幹を支えられるように補助椅子等を活用する。



[引用・参考文献]

- 飯野順子(2010)『障害の重い子どもの授業づくりパート3』ジアース教育新社.
- 石塚謙二(2011)『知的障害教育における学習評価の方法と実際』ジアース教育新社.
- 茨城県教育研修センター(2009)「特別な教育的ニーズをもつ児童生徒に対する教科指導」
- 岡山県総合教育センター(2011)「授業づくりと学習指導案～授業の共有化と授業改善のためのツール～」
- 桂聖・広瀬由美子(2012)『授業のユニバーサルデザイン』東洋館出版社.
- 島治伸・秋本公志(2011)『特別支援教育時代のコミュニケーション支援』ジアース教育新社.
- 立松英子(2009)『発達支援と教材教具』ジアース教育新社
- 筑波大学桐ヶ丘特別支援学校(2011)『「わかる」授業のための手だて』ジアース教育新社.
- 辻誠一(2008)『特別支援教育のコツと技 教師力アップのために』日本文化科学社.
- 宮城県特別支援教育センター(2009)「教師のための特別支援教育サポートブック」
- 文部科学省(2009)『特別支援学校幼稚部教育指導要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領』
- 文部科学省(2009)『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』
- 文部科学省(2009)『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)』
- 渡辺三枝子(2008)『キャリア教育ー自立していく子どもたち』東京書籍.
- 渡邊健治・湯浅恭正・清水貞夫(2012)『キーワードブック 特別支援教育の授業づくり』クリエイツかもがわ.

「特別支援教育のミニмумスタンダード」

平成25年3月31日発行

秋田県教育庁特別支援教育課
秋田県総合教育センター

